



つじどう小だより

2026年9月4日

藤沢市立辻堂小学校

校長 納富 崇典

始業式の話

9月1日、子どもたちが学校に戻ってきました。すっかり日に焼けた笑顔で、久しぶりに再会した友達と楽しそうに話す姿を見ていると、校舎全体に再び心地よい活気が満ちていくのを感じます。始業式で、私は子どもたちに大きく3つの話をしました。1つ目は「生活のリズムを少しずつ戻していこう」ということ。2つ目は「防災力を身につけよう」ということです。この夏は全国的に災害が多く起きた夏でもありました。不安を覚えた子もいたかと思いますが、これから生きる私たちにとって、いざというときに正しく行動できる力は大切です。訓練を含めて防災の学びを深める2学期にしたいと伝えました。そして3つ目は「目標を1つ決めてのぞもう」ということです。2学期は1年の中で最も長く、じっくり学習に取り組める時期です。日々の教科の学習はもちろん、遠足や社会科見学、修学旅行、運動会など、子どもたちが活躍できる場面が数多く待っています。目標を持って充実した日々にしてほしいと呼びかけました。

話したくて100人に聞いてみました

子ども達の夏休みの様子を知りたくて、100人インタビューを行いました。

○「夏休みが終わって今の気分は？」 ・もう少し休みたかった 54人 ・早く学校にいきたくった 29人 ・どちらでもない13人 ・始まってほしくなかった4人 多くの子が「もう少し休みたかった」といいながら、でも「早く学校に行って友達に会いたかった」と話していました。学校があるからこそ会えていることを実感しました。6年生は「始まってほしくなかったです」ときっぱりと(でも笑顔で)言う子が数人いました。しかし「先生に失礼でしょ」と気を使ってくれていました。9月のスタートは、1年のうちで最も憂鬱になる日でもあると言われています。インタビューできなかった子どもたちの中にいろいろな気持ちをもっている子がいることを気にして見ていく必要があると感じています。



○「この夏にがんばった勉強は？」 ・漢字(ひらがな)29人 ・計算 27人 ・読書19人 ・英語8人 ・その他17人 主に宿題について話している子が多く見られました。その他の17人の中には自由研究、絵やポスターを描く、リコーダーの練習、都道府県を覚えるなど夏休みだからこそその課題に向き合う様子が見られました。

○「この夏の思い出を教えてください」 ・楽しかった82人 ・頑張った7人 ・おいしかった5人 ・困った1人 ・その他5人 迷わず「楽しかったです」と答える子が多く見られました。理由を聞くと、「友達が泊まりにきた」「花火をした」「旅行に行った」「海やプールで泳いだ」などと話してくれました。今年は、伊豆や群馬、長野に行ったという子が多かったです。南の島や海外に行ったという子もいました。思い出した瞬間に表情がふっと明るくなり、みんな目を輝かせて話してくれました。私は夏に島へ行こうとしたのですが台風で行けなくなると始業式に話したら、「校長先生と一緒に台風で行けなかったよ」と伝えてくれる子もいて、残念な気持ちを共感することもできました。辻堂の子ども達は、夏休みに多種多様な体験をしている子が多く、経験が子どもたちを成長させてくれるのだと実感しました。

夏の経験を胸に、少し大きくなった子どもたちと始める2学期が楽しみです。2学期も子どもたちの成長を職員一同で支えていきます。